令和６年（２０２４）度　第１回　大阪府立西成高等学校　学校運営協議会　議事録

【日　時】　　6月15日（土）10：00～12：00
【場　所】　　大阪府立西成高等学校　多目的室A
【出席者】　　（会長）西田芳正委員（副会長）高見一夫委員　緋田隆平委員　榎井縁委員
　　田中俊英委員　臣永正廣委員　堂上勝己委員　西田吉志委員　東野佳織委員
【内　容】

1. 開会
2. 校長挨拶
3. 委員紹介及び会長・副会長選出
4. 議事
   （1）今年度の重点取り組み事項について
   （2）生徒の現状について
      ①各学年の様子（各学年主任）
      ②「学校生活と人権アンケート」結果について（こども人権室長）
   （3）その他
      ①進路
      ②学校経営推進費
5. 閉会

【事務局からの説明および各委員からの意見等】

（１） 今年度の重点取り組み事項について

<u>目指す学校像</u>

方針は「学びと福祉の結合による生徒の自信と勇気を育む学校」
教育と福祉の結合の成功事例がないなかで本校が目指す教育は「昼間の高等学校（＝高等学校の教育課程を実施している）」という枠組みを維持しつつ、支援が必要な生徒が多く入学してくるなかで、「大人が子どもたちを育む」だけではなく、「子どもが子どものなかで育つ」枠組みを作っていく。これが「ともに学び、ともに育つ」ということだと考える。

公立高校の定員割れが 70 校に達しているなかで、様々な配慮が必要な生徒が多く入ってくる学校がある。本校は「適格者主義（＝定員割れで入ってくる生徒はこの学校に来るべきではない。この学校にはこういう人が適しているetc)」を乗り越えていく。具体的には生徒の自己責任を強めてしまう「高校は義務教育ではない」という言い方をやめ、教育機会を維持していきたい。

①　Inclusion(インクルージョン)を実現する

・成果目標が現在80～90%以上を達成しており、75%を超えていれば達成しているといえる。しかし、この割合を高めていくにつれて生徒への同調圧力が強まる可能性があるため、バランスを考えていきたい。
・子どもらしく生きる権利を回復していきたい。（産業社会と人間、総合的な探求の時間での「人

権総合学習」（西成学習や反貧困学習）によって、そうした教室内にいる仲間の理解を深めることを通じて、世界を把握することができるよう取組みを進める。　［会議資料より一部抜粋］）
Competency(コンピテンシー)を育てる
・「Less is More」＝知識量は少ないとしても、より豊かな学びにつながる
→「たくさん覚えていることがいいこと」という価値観からの脱却

② 社会参画を実現する Democracy(デモクラシー)を育てる
・N-TIME という授業では「ふくし入門」「働くことの法律学」「くらしと防災」「SST」を学習し、2クラス 4 展開で実施。西成高校では大事なこととして位置づけており、必履修としている。

③ 「地域連携」「地域協働」を育む
・（資料 5　各分掌の地域連携に関する取り組み紹介）

④ 運営改善で教員力を育む
・学年職員室を中央職員室に
・9 時 35 分授業開始（朝に会議を実施→コロナ終わりの時期と比較して超勤時間が R5 に 14%削減）

（１）の質疑・応答

Q1：委員「『にしなり学』を実施するにあたり、人権学習と関連して『お笑い文化』を取り上げてはどうか。大阪のお笑いは『いじめ』や『からかい』とは馴染まない、優しい文化。大阪文化を学ぶことが、潜在的な存在に光をあてることにつながるのではないか。」

山田校長「過去に噺家に来ていただき、「笑いと差別・いじめとイジリ」というテーマでにしなり学を実施したことがある。かつては、からかいや笑いを権力者に向けていた。しかし、最近のお笑いは形体や容姿に対するイジリが笑いになっている。教育とエンターテイメントを結びつけるような方向には進んでいないように思う。西成はお笑いの、ある種「原点」がある場所。いただいたご意見について考えていきたい。」

委員「『弱者をいじめる笑い』以前の古い大阪文化について、『笑いと優しさ』といったテーマで継続的に取り組んでみることをお勧めする。」

山田校長「適任の講師がいれば、ぜひ話を聞かせてもらいたい。」

Q2：委員「地域に深く根ざしながら世界とつながるということについて、具体的には子どもたちをどういった世界とつなげていくイメージか。」

山田校長「子どもたちだけでなく、教育者がつながっていく。混迷した教育界において、例えば、ポルトガルのセカンドチャンスハイスクールに学びがある。ヨーロッパの格差がある地域では、どのような教育が行われているのかを学びたい。その中で、子どもたちが世界

をどう見ているのかを含めて考えていくことは、本校のヒントになると考える。先生方には、うちの生徒はどのように世界を見ていけばよいのかについてご教授願いたい。」

委員「今の学生は世界で起きていることに無関心だ。しかし、不条理な環境に置かれた子どもたちは、世界で起きている不条理を他人事ではないと思うことができる。子どもたちを自分の中に籠るのではなく、社会的、世界的なものにつなげていく必要がある。」

委員「最近は、海外にルーツがある方との接点が非常に増えている。身近に、例えば学校から外国文化を知っていくことも実施しやすい方法ではないか。」

委員「海外にルーツがある保護者の方々から生の声を聞くことができれば、生徒は自分のこととして、世界の状況が体感できるのではないか。」

Q3：委員「ステップスクール１期生が入学して、何か変化はあるか。」

１年主任「入学生徒の減少と複数担任制によって、担任が子どもたちの些細な変化をキャッチできるようになり、長期欠席の生徒が減少したと実感している。」

Q4：委員「くらしと防災とあるが、防災について、今の子どもたちは意識が低いと感じる。子どもたちに教育をしてほしい。」

山田校長「自分は、災害時にはどこへ逃げるか、どこで家族や大事な人と会うかを決めておくことが大切だと生徒に伝えている。そういったことは学校から指導するだけでなく、当事者同士が具体的に約束をしなければならない。学校としては、生徒が気象情報・災害情報をテレビで見て理解し、避難の判断ができるようにさせたい。本校では１学年の理科で取り組んでおり、2・3学年のにしなり学でも防災について取り上げている。」

委員「授業中に学校で災害が起こったらどうするのか。」

山田校長「11m程度の津波を想定し、3階以上に上がる。備蓄の食料は4階にあるが、何日分もあるわけではない。今、起こったらどうするかという話。」

委員「まず、自分の命を守ることを優先して考えてほしい。教育をしておかなければ、災害はいつ起きるかわからない。」

委員「津波の恐ろしさを刻み込まれている大人と違い、当時、幼かった生徒たちは津波の恐ろしさを実感していない。実感できない子たちにどう伝えていくかが難しい。」

Q5：委員「子どもの権利条約の内容について、来年の西成区 100 周年において、『西成区 100 周年宣言』という形で子ども・若者たちが『子どもらしく生きる権利、守られる環境づくり』を宣言することを考えている。

可能であれば、西成高校の生徒がリーダーとして、西成区内の小・中学生と一緒に文言づくりに取り組むことをお願いしたい。西成高校で様々な課題を抱えながら乗り越えてきた生徒が、西成の小・中学生に与える影響は非常に大きい。

小・中連携はあるが、小・高連携の例は少ない。同地区内の小・高連携の取り組みでは年齢差のある子どもたちが非常によい関係を築いていた。

子どもの権利を守るような宣言を、西成高校の生徒主導で形にしてほしい。」

２）生徒の現状について

①各学年の様子

＜３年より＞

・学年目標は「やらなあかん、やるしかないんやで」。
・主眼に置いているのは進路活動。３年生の１年間は進路活動から逃げず、やるべきことを後回しにせずに立ち向かってほしい。教員もサポートしていくことを学年集会で伝えた。
・行事など多くの人から注目を浴びる場では、自分の振る舞いや行動が見られていることを意識して、後輩の手本となるようにしてほしい。
・９６名就職希望。社会で通用する行動を身に着けてほしい。卒業後を意識して遅刻欠席を減らし、進路活動に立ち向かっていってほしい。
・自分の進路を納得して決め、就職先・進学先を選んでほしい。採用されて終わりではなく、労働という形で社会に参加していき、それを継続できるようにサポートする。

＜２年より＞

・昨年度２１３名入学、１８０名程度進級（約８０％）、現在１９２名在籍。
・不登校で学校に来られない、停学指導に乗れない等で３０名ほど進路変更。
・昨年度の学年目標は「笑顔いっぱいの１年にしよう」。とにかく生徒が学校を続けられるように楽しいことを考えて、頑張らせたいという目標であった。
・今年度の学年目標は「一人ひとりが主役の１年間にしよう」。
・在籍している生徒たちが成長できるように楽しく過ごしてほしい。しかし、生徒たちがただ楽しいだけでなく、自分たちが主役になり積極的に取り組めるような機会を作る。昨年度は機会を作ってあげていたが、今年度は生徒が主体的に取り組めるようなことを増やしていく。
・現状、欠席者や遅刻者がかなり多い。
進級した生徒のうち３０名程度が、１年生の後半からなかなか来られず欠時数ギリギリで進級している。その生徒たちがそのまま２年生の初めから来ることができていない。
頑張って来ている生徒が真剣に取り組めるような工夫もしつつ、学校に来られていない３０名程度の生徒が昨年と同じようにならないよう、学年全体で声掛けしていく。

・インターンシップ（6/１２～6/１４）では３日間、初日６名、２日目２２名、３日目１５名が欠席。最初は頑張るものの、継続しない、継続できない生徒が多い。行事など通して継続できる力を伸ばしていきたい。

＜１年より＞
・ステップスクール１期
・在籍数１７０名（在籍のみ７名）
・学年目標は「人、モノ、時間を大切にしよう」
（人）「自分を諦めない」「相手を思いやる」ということを中心に生徒に話していく。
（モノ）身の回りの管理ができない生徒が多いと感じる。まずは自分のもの（プリント、机周辺、ロッカー周辺）の管理を１年生のうちに徹底していく。
（時間）怠慢による遅刻が少なくない。生活習慣の改善、授業を大切にする意識を高めていく。
・この目標を通じて、西成高校に通う仲間のことを理解し、高校生活を充実させ、いろいろなことにチャレンジできるような３年間にしてほしい
・５月の校内遠足（中庭で BBQ、体育館でレクリエーション大会）。
校内で実施した意図は、公共交通機関を利用することに抵抗がある生徒もたくさんいるが、仲間づくりをするうえで参加率を上げることが重要であるため。結果、参加率は高く仲間づくりができた生徒が多い印象。友達の輪を広げられた遠足にできた。
・例年より長欠者が少ない。初めの緊張感もあるが、入学した時の気持ちを忘れずまず１年間継続させ、少しでも多い人数が卒業できるようにする。まず２年生への進級者数を多くさせていきたい。
・人間関係、SNS 関係でのもめごとが多い。トラブルが起き悲観的になって教員に相談し、事象が見えてくる。原因は物事のとらえ方が一方通行である。このことから、相手がどう考えているかを認識する力が低いと実感。生徒の要望に沿いながら、生徒が SC に相談し SC から教員にアセスメントや助言をいただいている。
・N-TIME は年間４期構成で、各授業７回ほどしか受講しない。少ない時間で何かを植え付けるのではなく、考え方を示し日常での実践を促す。
その中でも SST の授業では、アンガーマネジメントやアサーティブな表現について学習。相手のことを考えながら自分のことを伝えるワークを取り入れている。授業を通して、相手のことを理解する、自分の気持ちを表現することが苦手な生徒が多いように見受けられる。授業にはＳＣに入ってもらって、アドバイスやコメントをいただいている。

②人権アンケートについて
＜こども人権室より＞
人権教育推進室と自立支援教育室が統合し、今年度からこども人権室が新設。
１年生からステップスクールにかわり、募集人数自体が減ったことで回答人数も減っている。

＜アンケート結果・分析＞
・生徒が住んでいる場所は大正区が半減、西成区、住之江区、住吉区が増えた。

・一緒にいるときに最も安心することができる相手として、１年生は他学年と比べ「母親」と答える生徒が多い。悩み事があるときに相談する相手についても同様。
家庭とのつながりが強い傾向にある。
・困ったときに保護者、学校以外に相談したことのある場所として、本校では様々な形で相談機関を紹介しているため、３年生は子相や役所、警察など外部機関へ相談する生徒が多い。
・学年が進むにつれて、アルバイトをしている生徒の数は増えている。
・１年生は毎日３食食事をしている生徒が非常に多い。２，３年生は１日に１食という生徒が一定数いる。
・家の経済状況について、１年生はよいと思っている生徒が多く、よくないと思っている生徒が少ない。
・家で家事などをしていない生徒が１年生の７割で非常に多い。一方で 2・3 年生は５割近くが家事などをしている。
・SNS 上で知り合った人と連絡を取り合って実際に会ったことがあるかについて、各学年２割の生徒は経験がある。SNS 上のコミュニケ―ションのハードルは低くなっている。
・難しい、不安に思うことは、１年生は九九やローマ字などをはじめ、各項目にまんべんなく不安な生徒がいる。
・高校での学習は将来につながると思うかどうかについて、１年生はそう思うと答えた生徒が多い。勉強に対して苦手な意識が強い生徒が多い一方で、勉強が将来自分の役に立つと思っている生徒も多い。ステップスクールに変わったことで、勉強したいという意識をもって学校に来ている生徒も一定数いる。
・不登校を経験していない生徒が１年生は７割を超えている。

（２）の質疑・応答

Q1：委員「人権アンケートによればステップスクールに入学してきた生徒（第１学年）は、親子関係や虐待、経済的な要因で困難さを抱えている生徒よりも、障がい等の背景によって勉強に苦手意識をもっている生徒が主流になっているのか。生徒の背景に違いはあるのだろうか。」

教員「背景に大きな変化はないと思われる。要保護児童対策地域協議会にあがっている生徒の人数も今までの学年と大きな違いはない。経済的な状況も大きく変化している様子はない。授業での実感としては、学びに向かう姿勢が積極的になっていると感じる。また個人的な印象だが言葉で聞いたものを絵で表現する力も今までよりも高い傾向にあるように感じる。これはステップスクールになり、入試の際に志望動機をしっかりと言えるかが重視されたためではないかと推測される。」

教員「オープンクローズを含めて障がいのある生徒の人数は増えていないが、学年全体の人数が減っているため割合は増加している。」

Q2：委員「アンケートだけ見ると１年生は２、３年生に比べて経済的に困窮している家庭は少ないのだろうか。」

教員「制服購入は生活保護の世帯も含めて非常にスムーズに行われ、制服貸与の生徒も今年はいない。
ただし、生活保護は必ず月初めにお金が支給されるため、子ども的感覚では、家庭の経済状況が良いか悪いかの判断がつきにくいのではないかと思われる。」

校長「学校生活と人権アンケートによれば、自分だけの部屋があるか、自分だけの学習机があるかなどの項目は学年によって違いはない。学力ではなく、家庭の経済的な状況を把握するには、自分の部屋があるのか、兄弟と同じ部屋なのか、WIFI が使えるのかという情報は有益である。」

Q3：委員「せっかくアンケートをとるのであれば、ステップスクールの有効性を示し、全国モデルにするために、学習意欲や家庭状況、虐待サバイバー、経済状況などとの相関関係を分析できるような要素をアンケート項目として設け、生徒分析していくべきではないか。そのうえでどの要素を補っていけばステップスクールがよりよくなっていくかを考える参考になるのではないか。」

校長「「高校での学習が将来につながると思いますか」の項目で「そう思う」と回答している割合が、１年生が一番多いということが非常に興味深い。ステップスクールというはじめての学校に期待して入学している生徒が多いと思われる。エンパワメントスクールだったときも期待して入学している生徒が多かったが、ステップスクールになりそれをさらに上回っている。」

委員「今までは経済的な状況と学力は相関していると言われていたが、経済的に余裕があっても特性によってうまく人間関係が作れない等の子どもは存在するということがステップスクールで明らかになっていくかもしれない。新たな層を発掘できるかもしれない。」

委員「ステップスクールに関して分析を行い、発信をしていくべきである。」

（３）その他

＜進路保障室より＞～４８期生の進路状況について～
〇４８期生の進路区分別結果
・卒業生１３１名：うち就職７７名　進学２７名　その他２７名
〇定着支援について
・４月１日に退職者１名
・４月１日以降にしんどくなり、退職届が出たかどうかの確認もできていない者１名
・職場でしんどくなってしまった卒業生に対して、個別に面談の機会を設けている。
・必要があれば、事業所との面談をセッティングし、教員も付き添っている。

〈進路保障室からの報告に対する質疑・応答〉

Q1：委員「求人数は増加しているのか」

教員「昨年度生徒に公開した求人は９１１社。学校に来る求人は２０００社ほどある。その中から厳選して生徒に提示している。必要に応じて生徒からの希望があれば、新たに公開することもある。給与面に関しては、最低賃金が上昇したこともあり、上昇傾向にある。」

Q2：委員「求人の業種に特徴はあるのか」

教員「ここ数年、万博に向けて建築系と外食産業の求人が増加している。万博が終わった後が心配されるが、公共事業が多いため、今後仕事が減ることはないと言われている。」

校長「建築系の仕事に就く生徒も多いが、労働環境などから辞めてしまう生徒も多い。」

Q3：委員「進学希望の生徒は増加しているのか」

教員「４８期に関しては、４月当初４０名ほどの進学希望者がいたが、学習内容や金銭面など本当に必要な進学かを担任を通して確認していった。学習領域や学習習慣の面で課題がたくさんあるため、４年制大学への進学は推奨していないと進路保障室から伝えている。専門学校に進学する場合でも、希望している分野の求人が学校に来ていれば、そちらを勧め、すぐに働くほうが戦力になると伝えている。」

〈議事全体に関する質疑・応答〉

Q1：校長「ステップスクールに入学してくる生徒を定点観測するために、学校生活と人権アンケートにどのような項目を盛り込むべきか、アドバイスをいただきたい。」

委員「どの教科が得意かを聞き、科目に対する意欲をはかるのはどうか。
余暇の過ごし方について聞くのはどうか。」

校長「すでにいくつか余暇に関する項目があるが、保護者の方とはどのようにコミュニケーションをとっているかなど、保護者との関係を調査する項目があるのは分析に有効であると感じる。」

委員「保護者として私は仕事の関係で家にいる時間はあまり長くはないが、ゲームをしたり、今日何があったかお互いに話をしたりしている。」

校長「男女で保護者との会話量に違いがあるのかを分析することも面白いのではないか。」

委員「親子間の会話の量と勉強やスポーツとの好き嫌いと関係があるのか調査するのがよいと思う。

一人ひとりの個性が浮かび上がると面白い。さまざまな要素の相関関係がみえるような質問設定にするのはどうか。一つ一つの質問よりも出てきた要素をどのように連結させて、分析していくかが重要である。そしてステップスクールにはどのような層の生徒がいるのかを浮かびあがらせ、その層の生徒たちをどう伸ばしていくのか、という２段階で考えていくのがよいと思う。そのために経済状況など分析可能なデータを用いて分析に役立てていくのもよいと考える。１年生の間に２回調査をするのも有効ではないか。」

委員「スポーツフェスタやカルチャーフェスタ以外にやってみたい行事やイベントはあるかという質問はどうか。こちらでは気づかない生徒の趣味や嗜好が見えてくる可能性がある。」

〈閉会に際して〉

委員「先日通信制高校の説明会に参加した。多くの親子が参加していた。府立高校の定員割れの状況と突き合わせると不登校など本当にしんどい子どもたちがそういった高校に流れているという実態を改めて確認することができた。文部科学省も令和の新しい学校として通信制もありきのスタイルを目指している。ステップスクール及びその生徒像の分析がその流れを食い止める手掛かりになればと思う。そしてそれが統廃合の危機に瀕している学校の支えになることを期待する。」

〈事務局より〉

〇学校経営推進費事業案について

・学校経営推進費は各府立学校における独自の取り組みに対して大阪府から与えられるものである。
・プレゼンテーションを行い、２７校から６校選ばれるうちの１校に選出された。
・にしなり学の授業において使用するｅスポーツの道具の購入や靴づくり工房の電源設備の工事などに使用していく予定である。

以上